



儲かる「代理ビジネスの世界」！！



代理ビジネスというが何も目新しい話ではない。

古くは江戸時代いや、それ以前まで遡るかも知れない。江戸時代にはオナラの身代わり役をする「屁負比丘尼」というのがいたそうだ。これは身分の高い女性がオナラをしてしまった時に身代わりになるというものである。「へおいびくに」と読むのであるが、表向きは殿様や身分の高貴な奥方や娘に付き添い、身の回りの世話をしているのであるが、何かのはずみで主人がおならをしてしまった時には、屁負比丘尼は「自分がした」と言ったり恥ずかしそうに振る舞い、おならをした本人が恥をかかないようにしていた。主人の身代わりになるのである。

また、よく知られたものに「泣き女」というのがある。「なきおんな」、「なきめ」あるいは「なきや」というのだが、葬式の時に雇われて号泣する女性である。哭き女、哭女とも書く。現在の日本では職業としては存在しないが旧習として存在し、中国、朝鮮半島、台湾をはじめとして、ヨーロッパや中東など世界各地で散見される伝統的な習俗である。かつては職業としても存在した。

現代ではメーカーの販売代理をする販売代理店やアマゾンのように消費者の購買代理をするビジネスもある。車の代行運転をする「代行タクシー」や電話の取次ぎをする「電話代行」などは、もうすでに身近な存在になっている。

しかし、この「代理ビジネス」・・・実はアメリカでは非常に大成功を収めているビジネスであり、今、日本でも非常に進化・発展を遂げつつあるのである。面倒臭いこと、煩わしいことをサクッとやってくれる「代理ビジネス」は大きな成長産業になっていきそうである。

①飛び込み営業の代理ビジネス

新規顧客開拓が進まず、売上が伸び悩んでいる会社の営業代行をするというビジネスである。

新規顧客のアポ取りをすることはもちろん、アポが取れた企業に出向いて営業代行も行う。

これまで、アポ取りをする会社はあったけど、営業代行まで行う会社は無かったと思う。このビジネスは今、大きく成長している。

②結婚式の代理出席

結婚式で新郎新婦、それぞれの招待客の人数のバランスが大きく合わないので調整したい場合、片方が地方出身で、せっかくの結婚式とはいえ、式場近くには誰も知人がおらず、ほとんど友人の出席が見込めない場合等、なんらかの事情で、結婚式や披露宴、その二次会等の出席人数を増やしたい。そんな際に、友人や親族席の人数を調整するために、雇われた人が、関係者のフリをして出席する、というお仕事である。若い人には結構うまい味のある仕事になっている。

③集金の代理ビジネス

今、コンビニでプロパンガスや灯油などの様々な支払いやコンサートのチケット、通販での支払いなどができるようになっているが、その仕組みを作り、運用している会社がある。文字通り「集金」の代理ビジネスである。表には出ないので目立たないが、大きく儲かるビジネスになっている。

その外にも「落とし物回収代理サービス」や「タクシー配車代行」、「企業から依頼を受けて新商品のサンプルを商品に取り付けていくビジネス」など、様々な形態の代理ビジネスが出て来ている。

「代理ビジネス」は人手不足の時代にマッチしたものであり、今大きく花が開きつつある面白い領域になってきている。